

TOPICS:IFRS



■最近の潮流(IFRS)

□International Financial Reporting Standards:
国際会計基準

□読み方

①イーファース ②イファース ③アイファース ④アイエフアールエス etc..

□IFRSs=IAS(従来の国際会計基準)+IFRS

□日本のスケジュール

→2010年(H22年)3月期の任意適用開始(1社適用)

→2012年(H24年)に上場企業に採用か金融庁が判断

→2015年(H27年)に強制適用(予定!!??)

その後.. ①東日本大震災 ②産業界の反対 ③米国とEUの会計基準戦争

→採用大幅slow down “国益なき追従”(H23. 7. 4NB)

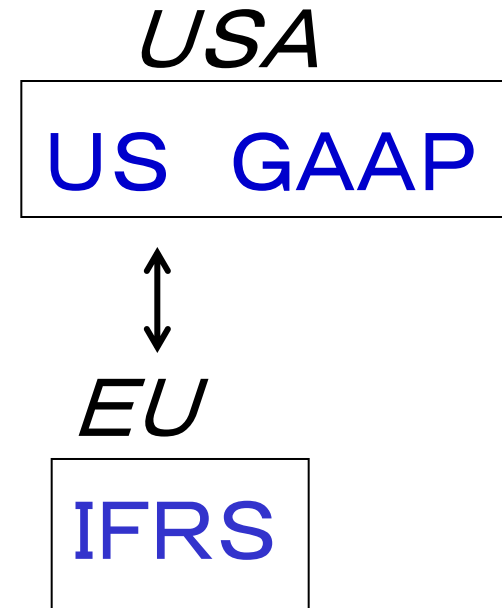
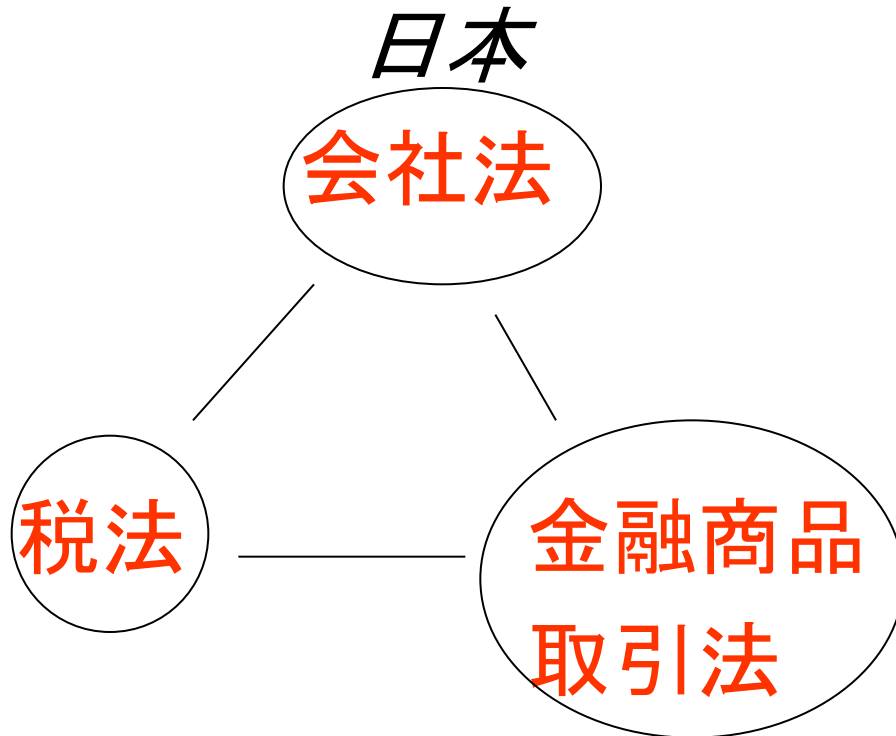
(全ての上市企業→部分適用、準備期間3年→5~7年、米国採用のあと)

□経営戦略上のインパクト

→YES!!(上市連結企業? 約3100社) 企業会計基準の大幅変更



「制度会計」



US GAAP: Generally Accepted Accounting Principles 米国会計基準

IFRS : International Financial Reporting Standards 国際会計基準

『米、国際会計基準を導入』

* Aug. 27 '08のショック

(事実上のUS GAAPの敗北宣言)

米証券取引委員会 (SEC: Securities and Exchange Commission)

が2011年に義務化するか否か最終判断

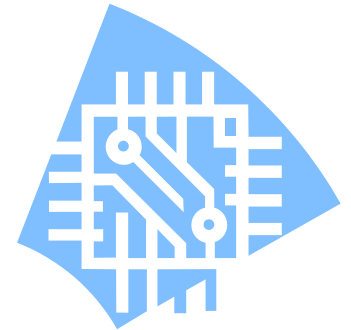
□2014年 大企業が採用

□2016年 中小企業が採用

(米国上場の外国企業には、現在もIFRSを認めている)

* その後、景気減速懸念で採用に慎重

→2011年の判断が遅れる！

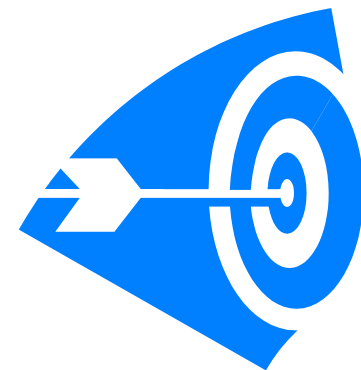


『IFRSと日本の会計基準(現行)の比較』

項目	IFRS	日本基準
アプローチ	演繹的(理論的)	帰納的(経験的)
コンセプト	原則主義 (数値基準なし)	規則主義 (数値基準あり)
重視	B/S (資産・負債重視)	P/L (損益重視)
利益	期末純資産－期首純資産	収益－費用



* 具体的には？



□ P/L, B/S、C/Sが大幅変更

P/L→包括利益計算書、利益の概念が変わる

B/S→財政状態計算書、バランスシートではなくなる

C/S→直接法のみ

□ 売上計上基準：出荷基準→到着基準・検収基準

□ リース会計：ファイナンス以外もon-balance

□ 棚卸評価方法：後入先出法の廃止（2010年）

□ 減価償却の耐用年数：税法→資産ごとに見積もり

etc...

『包括利益計算書』

□企業会計基準第25号「包括利益の表示に関する会計基準」の公表
(H22. 6. 30 企業会計基準委員会)

→上場企業では、H23. 3. 31期より開示

□包括利益とは？

会計期間中純資産の変動額のうち、当該企業の純資産に対する持分所有者との直接的な取引によらない部分。

→純資産の変動のうち、資本取引に該当しないもの

包括利益のうち、当期純利益及び少数株主損益に含まれない部分

→「その他の包括利益」という

□表示形式

* 1計算書方式:P/Lの当期純利益の後に表示

* 2計算書方式:P/Lとは別に、連結包括利益計算書を表示

→S監査法人の調査では、1計算方式 7社 vs 2計算方式 200社

『包括利益(その1)』 (H27. 3. 31)

(単位:百万円)

会社名	G1	G2	G3	G4	G5	G6
事業年度	平27. 3. 31	平27. 3. 31	平27. 3. 31	平27. 3. 31	平27. 3. 31	平27. 3. 31
	(USGAAP)	(USGAAP)	(日本基準)	(日本基準)	(日本基準)	(日本基準)
売上高	27,234,521	12,646,747	11,375,207	3,033,899	1,879,442	2,180,728
A: 当期純利益	2,173,338	522,764	457,574	158,808	117,060	118,170
為替換算調整勘定	404,352	561,014	203,822	20,504	49,560	30,750
B: 包括利益(注)	3,122,722	966,087	666,976	209,038	183,057	144,787
B/A(%)	143.7%	184.8%	145.8%	131.6%	156.4%	122.5%

(注) 日経平均 = ¥19,206.99 \$1 = ¥120.20 €1 = ¥129.23

→ 株高・円安で大幅アップ



『包括利益(その2)』 (H28. 3. 31)

(単位:百万円)

会社名 事業年度	G1 平28. 3. 31	G2 平28. 3. 31	G3 平28. 3. 31	G4 平28. 3. 31	G5 平28. 3. 31	G6 平28. 3. 31
	(USGAAP)	(IFRS)	(日本基準)	(日本基準)	(日本基準)	(日本基準)
売上高	28,403,118	14,601,151	12,189,519	3,406,603	1,926,967	2,267,849
A: 当期純利益	2,312,694	406,358	523,841	134,419	114,676	89,094
為替換算調整勘定	△ 395,352	△ 430,152	△ 286,807	△ 10,351	△ 42,094	△ 33,866
B: 包括利益(注)	1,445,917	△ 188,580	71,164	98,974	72,966	45,240
B/A(%)	62.5%	-46.4%	13.6%	73.6%	63.6%	50.8%



(注) 日経平均 = ¥16,758.67 \$1 = ¥112.42 €1 = ¥127.52

→ 株安・円高で大幅ダウン！！



『IFRSと企業経営』

* **メリット** → 財務内容の透明性が向上

□ グループ企業同士の比較が容易

□ 連結経営の“見える化”の促進

□ 海外企業との比較が容易

□ 株価に好影響



* **デメリット** → 導入・運用コスト

□ 見積要素が増え、外部分析による予測が困難

□ ダブルスタンダード & 注記増、作成者の負担増

□ 会計基準の設定・変更が日本の意向で行えない

『IFRS vs Your Job』

* 経理担当

- 業務量増大(ダブルスタンダードの負荷:単体:日本基準、連結;IFRS)
- 減価償却の見積、税法との調整等々

* 情報シス担当

- 導入・運用の計画・実施
- 既存システムとの調整、ERPの促進

* 営業担当

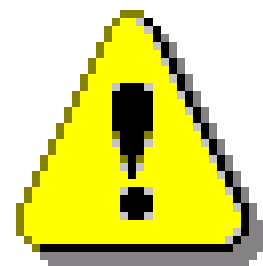
- 売上高減少(計上基準:出荷基準→到着・検収基準)
- 各種伝票変更(C/S:間接法→直接法のみ)

* 経営企画担当

- M&Aはやり易い(のれん代:償却あり→償却なし)
- ポイントは使えず?(50%引当金→全額費用)

* 人事担当

- 制度変更要(有給休暇:与えた時点で負債、期末未消化は費用計上)



我が国最初のIFRS適用！ (H22. 3. 31期)

■N社(東証一部)

* 当期純利益4,337 → 包括利益4,167 (百万円)

* 売上計上基準変更

出荷基準 → 到着基準 $\Delta 60$ (百万円)

□B/Sは↓

□P/Lは↓

4. 【連結財務諸表】

(1) 【連結財政状態計算書】

(2) 【連結包括利益計算書】

資産の部

Subtotal 100.00%

変化はチャンス、前向きに！！

*

CHANGE



*

CHANCE

IFRS早期適用企業：(H28.12)任意適用101社 予定27社 合計128社 東証HP:IFRS任意適用一覧

→トリプルスタンダード：①日本基準 ②US GAAP ③IFRS